

特定非営利活動法人OVA

対人援助職向け危機介入研修

「死にたい」にどう対応するか？

実施報告

## 開催概要

日時:2020年1月28日(火) 13:00~16:30(3.5時間)

場所:日本財団ビル大会議室

対象:対人援助職員

講師:清水幸恵(特定非営利活動法人OVA 認定シニアコンサルタント)

参加人数:39名

※当初参加申込44名のところ、6名が体調不良等によりキャンセル。当日参加1名。

スケジュールと内容:

時間	内容
45分	【第1部】「臨床に生かすための自殺の統計と現状」 ・自殺に関する統計的データ ・年間自殺者数／自殺率／自殺致死率と性別／自殺未遂率の性差／ 年齢・職業・曜日・配偶者・遺書の有無／国際比較等
60分	【第2部】「自殺の危険因子と理解とリスクアセスメントの方法」 ・自殺の危険因子と偽陽性について ・自殺に追いつめられる心理
10分	休憩
50分	【第3部】事例検討 ・「死にたい」と訴える若者の理解とアセスメント
45分	【第4部】危機介入方法のポイント ・支援者の逆転移 ・チームによる支援／バーンアウトの予防

## 研修の効果

当日は事前と事後に自殺予防への取り組みに対する自信のアンケートを実施し、研修の効果測定を行った。アンケート指標にはゲートキーパーとしての自己効力感尺度※を用いた。

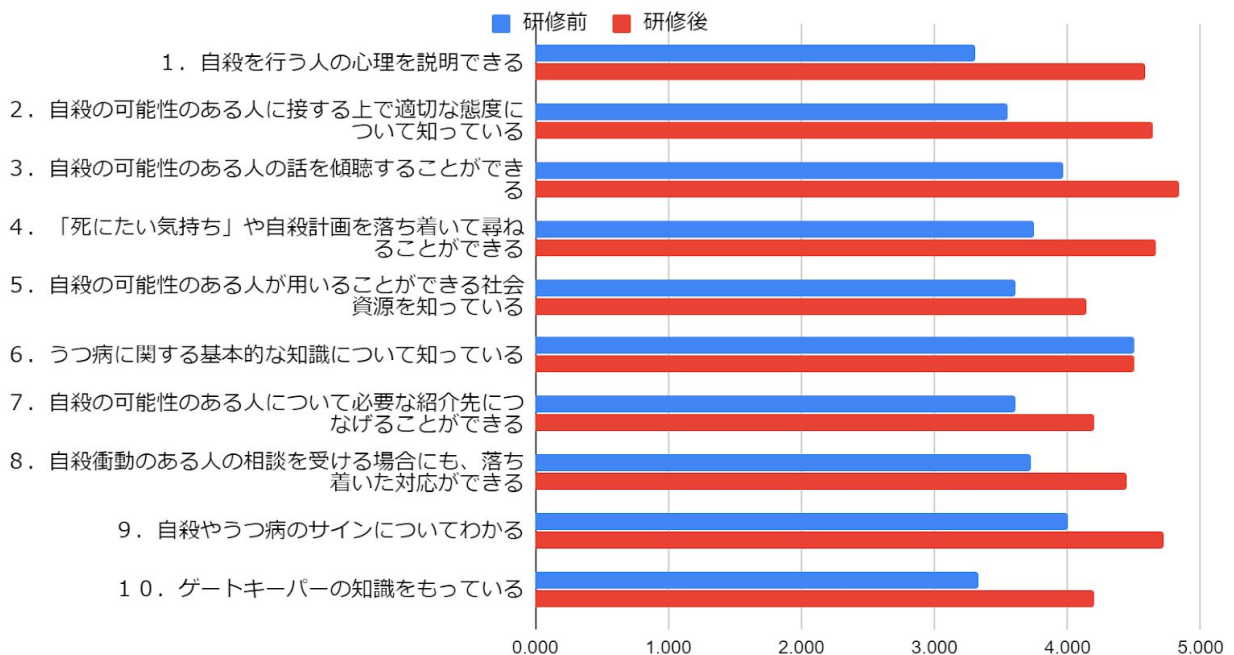
なお、アンケート回答への協力は36名であった。

※自殺予防におけるゲートキーパー自己効力感尺度(Gatekeeper self-efficacy scale, GKSES)の開発Development of a suicide prevention gatekeeper self-efficacy scale (GKSES)(森田、太刀川ら、2015)

回収した回答から、以下のような結果が見られた。

- 自己効力感全体は、研修後19.9%上昇した(合計点の平均が30.6から36.7に上昇した)
- ①自殺を行う人の心理を説明できる
- ②自殺の可能性のある人に接する上で適切な態度について知っているの2点についての自己効力感が特に大きく上昇した。

## 研修前と研修後のゲートキーパー自己効力感の変化



## アンケート結果

研修に関する自由記述では、以下のような内容が見られた。

- とても有意義な研修の内容で説明も理解しやすく、特にグループディスカッションでは具体例を読んで他の方の意見も聞けたので良かった。
- 自殺に関する研修は何度か参加してるが、具体的な対応方法についてエビデンスに基づいた方法を知ることが出来た。今日学んだことを先生方にも伝え、生徒と先生方の安心安全につなげたいと思う。
- 自殺の計画等、詳細を聞いた方が関係性の構築に役立つというのは知らなかったのが驚いた。大変勉強になった。

以上